

平成 28 年 1 月 13 日

第 14 回 SAT 賛助会員交流会開催（2 月 17 日（水））のご案内

つくばサイエンス・アカデミー

2 月 17 日（水）つくば国際会議場で、SAT 賛助会員交流会を下記の要領で開催します。

賛助会員交流会は SAT を支援して頂いています賛助会員同士および賛助会員とつくばの研究者との交流会です。賛助会員の事業紹介とともにつくばの研究者による研究紹介を行い、賛助会員と研究者との交流による新しい「知の触発」に繋げていくことも目的としています。事業紹介される賛助会員ばかりでなく、多くの賛助会員および個人会員の参加をお願い致します。

申し込み先：メールで宛先 academy@epochal.or.jp まで、

「第 14 回賛助会員交流会参加」と記載し、①氏名、②所属機関・部署・役職、③連絡先（電話、e-mail）、④懇親会（1,000 円/人 当日徴収）の参加・不参加をお知らせください。

問い合わせ先：つくばサイエンス・アカデミー（TEL 029-861-1206）まで

記

交流会プログラム

I. 交流会

午後 1 時～4 時 45 分

1. 開会挨拶

5 分

2. 賛助会員事業紹介（質疑応答含め各 25 分）

計 75 分

- ①大鵬薬品工業株式会社 執行役員 研究本部長 岩沢善一様
- ②東京化成工業株式会社 品質保証部 マネージャー 大貫裕之様
- ③株式会社常陽産業研究所 代表取締役社長 鈴木祥順様

3. つくば研究者講演（質疑応答含め各 25 分）

計 75 分

- ①「われわれのコンピュータ外科手術支援の取り組み」
筑波大学 医学医療系 消化器外科 講師 大城幸雄様
- ②「花の寿命を調節する遺伝子 一日持ち延長技術への応用」
農研機構 花き研究所 主任研究員 渋谷健市様
- ③「触媒化学融合研究センターの目指すもの」
産総研 触媒化学融合研究センター センター長 佐藤一彦様

4. 総合討論

20 分

5. 閉会挨拶

5 分

II. 懇親会 交流会終了後（午後 5:00 予定）～6:45

会議場 4 階「サロンレオ」 会費 1000 円

【参考資料】

事業紹介

① 「大鵬薬品工業株式会社の業務紹介」

大鵬薬品工業株式会社 執行役員 研究本部長 岩沢善一様

(概要) 大鵬薬品は、1963 年に大塚グループの一員として創業されて以来、がん、免疫・アレルギー、泌尿器領域の薬剤開発に取り組み、患者さんの QOL 改善、さらには根治に繋がる新薬創造のチャレンジを続けています。これまでの歩み、最近の研究開発の状況、グローバル化に向けた取り組みを紹介します。

② 「東京化成工業株式会社の業務紹介」

東京化成工業株式会社 品質保証部 マネージャー 大貫裕之様

(概要) 弊社は「試薬を通じて社会に貢献する」をモットーに、有機合成、機能性材料、バイオサイエンス、分析化学の 4 分野にわたり研究用試薬を国内外に提供しています。独自の有機合成・精製技術で製造されたカタログ収載品目は 2 万 4 千種類に及び、大部分がつくば事業所（筑西市）で小分け・包装され、世界各拠点に在庫して即納体制を強化しています。本講演では弊社の製品開発からお客様に製品をお届けするまでの流れについて概説します。

③ 「株式会社常陽産業研究所の業務紹介」

～常陽産業研究所は地域と企業の繁栄を目指し、皆さまと共に考え、共に歩みます。

株式会社常陽産業研究所 代表取締役社長 鈴木祥順様

(概要) 常陽産業研究所は、平成 7 年 4 月に「地域型シンクタンク」として常陽銀行グループにより設立されました。そして、常陽銀行が掲げる経営理念「健全、協創、地域と共に」のもと、皆さまと共に考え、共に行動しながら課題解決に取り組み、皆さまの繁栄のお手伝いをさせて頂いており、その概要について紹介いたします。

研究紹介

① 「われわれのコンピュータ外科手術支援の取り組み」

筑波大学医学医療系消化器外科 講師 大城幸雄様

(概要) われわれ医工連携グループは、コンピュータ外科手術支援システムの開発と運用を行っています。開発項目は多岐に渡り、1) 臓器変形が可能な肝切除、膵切除エミュレータソフトの開発 2) タッチレス画像閲覧システム 3) 現実仮想 (Augmented Reality : AR) オンレイディスプレイ手術ナビゲーションシステムの開発 4) 3D プリントを活用した手術シミュレーションについて報告します。ホームページアドレス <http://u-tsukuba-vrsurg.jp/>

平成 28 年 1 月 13 日

② 「花の寿命を調節する遺伝子 一日持ち延長技術への応用」

農研機構 花き研究所 主任研究員 渋谷健市様

(概要) 切り花では日持ちの良さが強く求められていますが、効果的な日持ち延長技術が開発されていない花も多くあります。私たちは、アサガオから花の老化を制御する遺伝子を発見しました。この遺伝子の働きを抑えたアサガオでは、花の寿命が約 2 倍に延長しました。花の寿命調節遺伝子発見の経緯と今後の展望について紹介します。

③ 「触媒化学融合研究センターの目指すもの」

産総研 触媒化学融合研究センター センター長 佐藤一彦様

(概要) 「砂、植物、空気から化学品をつくる実用触媒を開発する」をキャッチフレーズに機能性・基礎化学品の製造プロセスを革新し、我が国化学産業の国際競争力の維持・強化に貢献する触媒関連技術の発展を目的として、触媒化学に関連する「ケイ素化学技術」「革新的酸化技術」「官能基変換技術」の 3 つの戦略課題に取り組んでいます。その概要について紹介したいと思います。